

東奥日報

2019年(令和元年) 12月25日(水曜日) (14)

市街地や観光地 圏域の魅力一望

八工大生がジオラマ製作

八戸

八戸工業大学の学生有志による「八戸圏域内の魅力をPRする鉄道ジオラマ」の展示が21、22の両日、八

戸市河原木の八食センターで行われた。中心市街地や観光地などを精巧に再現したジオラマに、多くの家族連れらが見入っていた。ジオラマは横約3・5

メートル、縦約2メートルで同大鉄道研究会のメンバー5人が製作。学生が企画した調査や研究、地域貢献活動などに助成する同大の「学生チャレンジプロジェクト」や市

の助成金制度を活用した。ジオラマでは八戸まちなか広場「マチニワ」や「YSアリーナ八戸」といった施設に加え、蕪島や館鼻岸壁朝市などの観光地を再現

した。八戸圏域の「自由の女神像」(おいらせ町)と「名川チェリリン村」(南部町)も登場。各地を巡るようにレールを敷き、八戸線のレストラン列車「TOHOKU EMOTION (東北エモーション)」や「リゾートうみねこ」の鉄道模型も走る。

学生有志による活動は数年前から始まり、ジオラマは先輩から後輩へと受け継がれている。同研究会会長の山崎北斗さん(19)は「機械工学科2年」は「地域の魅力発信がジオラマのコンセプト。八戸圏域が多くの人に知られるきっかけになればうれしい」と話した。ジオラマは今後、市内で行われるイベントなどで展示するという。(工藤俊介)



八戸圏域の観光地や大型施設を再現したジオラマ